

「手術体位」という題を見て、すぐに「型」という文字が頭に浮かびました。以前、歌舞伎役者の故・中村勘三郎（18代目）が「型があるから型破り。型がなければ、それは形無し」という話をよくしていたのが大変に印象に残っています。中村勘三郎は、ニューヨークで「平成中村座」を上演するなど、新しい歌舞伎のあり方に挑戦し、成功をおさめた歌舞伎界のイノベーターでした。歌舞伎のような芸の世界では、その一門に代々と受け継がれてきた「型」がきわめて大切で、その「型」をしっかりと身につけて、初めて新しい分野に挑戦できるという深い意味の言葉です。

小職は1983年に医学部を卒業して、直ちに母校（千葉大学）の整形外科教室に入局しました。当時は、今のような初期研修期間（2年間）がありませんでした。したがって、医者としての考え方、診察や手術の手技のすべてを、医局の先輩から教えてもらいました。手術に関しては、大学ごとに「流儀」すなわち「型」があり、新入医局員はその「型」を徹底的に教え込まれて成長するという時代でした。「手術体位」についても、医局の「型」を徹底的に教えていただきました。その意味で、今回の特集の論文を拝見いたしますと、執筆された先生方のご出身の医局（あるいは、脊椎外科を習得されてこられた施設）ごとに、「手術体位」についていろいろな考え方があることがわかり、大変に興味深く拝読させていただきました。

小職は「手術体位」をとる際は、まず、脊柱のアライメントが気になります。頸椎手術では椎弓根スクリューが正確に刺入できるか？ そのためには、透視で椎弓根の軸射が描出できるか？ 手術台が透視を邪魔しないか？ などと考えをめぐらします。後頭骨頸椎固定術では、術中のOC2角の調整がスムーズに可能か？ を真っ先に考えます。

本特集の論文を拝読いたしますと、さまざまな工夫が強調されていて、なるほどと思うところが少なくありません。髄液の貯留が手術を妨げないような工夫、良好な視野を確保するための体幹・上肢位置の工夫、末梢神経の圧迫に伴う術後麻痺を避けるための工夫などです。特に工夫が必要な症例（高度肥満など）について解説していただいている稿もあります。実際に苦労した経験の提示は、何にもましてありがたいものです。

読者の先生方におかれましても、本特集をご熟読いただき、明日からの診療にお役立ていただければと思います。

（山崎正志）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 30 No. 11
(2017年11月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,300円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料 30,700円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2017,

Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。